

10月に全日本マスターズが 4年ぶりに開催

長月(9月)。8日は露を結ぶとされる白露で暑さに陰りが見えただろうか。18日は敬老の日で、20日は秋の彼岸の入り。23日が秋分の日で秋らしさが感じられると幸いだ。9月が過ぎると10月だが、この月の7日から3日間、山口市で全日本マスターズ陸上競技選手権大会が4年ぶりに開かれる。そこで大会に参加する話題の高齢クラス選手を中心に触れてみよう。

男子は97歳の亀浜敏夫さん(沖縄)はじめ、90代が元氣な姿を

2019年に群馬で行われた全日本マスターズ陸上競技選手権大会から3年間は、コロナ禍で中止されていたが、今年久しぶりの再開だ。参加者は男女1800人を超えるマスターズ陸上選手がエントリーした。会場は山口市の維新百年記念公園陸上競技場だ。

男子では、97歳の亀浜敏夫さんが沖縄からやって来る。M95・100m、200mを元氣よく走り抜く。連合の記録集によると、2006年度版の沖縄編の男子M80・100mに16秒31、400mは1分18秒98の沖縄記録を出している。81歳だった。

翌07年には今年の会場となる山口県であった第28回国際・全日本マスターズ大会のM80・100mは16秒40(+3.3)で4位、200mは34秒06、400mでは1分19秒34と1位になっている。それから歳月が流れて今回はM95クラスの短距離に姿を見せる。「耳が遠くて。でも、山口では記録を気にせず楽しく走ります」と。

97歳の勇姿から元氣をもらいたい。

同じ90歳代でもこちらはM90クラスの92歳。青森の田中博男さんだ。田中さんといえば、もう説明の必要はないだろう。2017年に86歳で15秒08、2021年は90歳で16秒86とM85、90各クラスの世界記録をマークした。

今年は3月にポーランドのトルンで行われた室内の世界マスターズ大会でM90・60m10秒95、200m38秒79で2種目に勝ち、200mは世界室内新だ

った。出場したら「勝つ」田中さんは注目の的だが「さすがに今年の暑さには“まいった”です」と練習も控えめだったようで「100mでは18秒、200mでは40秒は切りたいですね」と話す。

M90・100mは16秒69、200mが27秒07の日本記録はいずれも田中さんが90歳でつくったもの。本州北端の青森から、西端の山口までやって来る超スプリンター田中さんの力走に期待だ。

「いやあ、100mはどんなに頑張っても“青森の超人”には、とても、とても」と話すのは奈良の91歳、北良夫さんだ。田中さんと同じく教育畑の経験者である北さんは、大勢の人たちに慕われて、スポーツクラブでもリーダー的存在。暑い季節は控えめの練習だが、普段なら週3回はグラウンドに出る。「体調は良いので楽しんで走って、跳びたいと思います」と語る北さんはM90・100mと走幅跳に挑む。走幅跳のM90クラス記録の2m97の更新が目標だ。

福岡の重藤哲弥さんは92歳。21年の90歳のとき、福岡マスターズ選手権のM90・砲丸投で7m69を突き出し、7m38の日本記録を12年ぶりに書き替えた。今回は砲丸投と「昨年から始めた円盤投にエントリーしています」。

70歳の古希を機にマスターズ陸上を始めた。陸上は高1で始めたが1年半ほどでやめてしまった。久々に開始した砲丸投では80歳で出場した和歌山の第32回全日本マスターズ大会で、M80クラスに9m40で1位に。さら

に5年後、85歳で出た新潟大会の全日本マスターズ大会で8m88を投げ、M85クラスを制した。

さて、今回の成果は? 「暑さで練習が思うようにできていないので」と言いながら「7mは超えたいですね」と語る。円盤投の方は「未知数なので…」と笑いながら。「年々、筋肉が落ちて」と話すが、未知数の円盤投にも期待しよう。

短距離で期待の赤堀弘晃さん(兵庫)、大石唯さん(山形)

22年に50歳でM50クラスの100m11秒18、200m23秒10と両種目で日本記録を樹立した赤堀弘晃さん(兵庫)が張り切っている。暑い7月、今はやりの災難病にかかり「熱は39度も。体重が落ちて大変だった」そう、練習を一時中断。8月に入ってから午前中に2時間ほど汗を流した。

山口大会では「記録を狙うとかでなく、気軽な気持ちで」。理由は2024年にスウェーデンで行われる世界マスターズに出場予定で「来年のことですが、世界に向けての気持ちでレースに臨みたい」と前向きに話す。M50クラスの100m、200mの記録保持者がどのような走りを見せるだろうか。

若い38歳の大石唯さん(山形)は「人生の大先輩に負けず張り切っています」と、全日本マスターズ山口大会を見据えている。大石さんは6月の日本選手権のマスターズの部・男子100m1組(M35～45)を10秒84の快走で、全体のトップに立った人物。勤務先は山形市役所だ。

「21年に36歳で30歳代のベストを出すことができた」と言う大石さんは「山口では100mで10秒台のシーズンベストを出したい」。東洋大、山形大院で学び、10秒46が若き頃のベストだ。24年には40歳となり、M40クラスに出場できるが「再び目標を定めて、そのクラスのタイムに挑みたい」と大石さんは今年11月のアジア・マスターズにも目を向けている。

楽しいW85の福田外枝さん(石川)、馬淵弘子さん(大阪)

6月の日本選手権、マスターズの部の女子100m 3組(65歳以上)でただ1人、W85クラスに出場した福田外枝さん(石川)。タイムは23秒98で8人中の8位。「タイムとか、順位は問題外です。あのような場所に立たせていただいた感動は忘れることができません。夢を見ているようでした」と弾んだ声で語る。

金沢市に住む86歳の福田さんは9月号で触れたように、地元の石川県で開かれた第24回全日本マスターズ大会を協力スタッフとして手伝ったのを機にマスターズへ入会。その後、2014年に岩手・北上市でのアジア大会を兼ねた第35回全日本マスターズ大会の100mに出場してみた。当時は77歳。W75・100mを夢中で走り、20秒35で5位に入賞した。「うれしかった。このときも夢のようでした」

山口ではW85・100mとハンマー投へ。2021年に100m24秒18、ハンマー投で15m50の福田さんは「100mは22秒台を目指したい、といえばオーバーですかね。ハンマー投は15m50以上を」と言って笑った。

一方、大阪の87歳、馬淵弘子さんは走って跳んで、を身上とする。19年の第40回記念・国際全日本マスターズ大会では、W80・走高跳で0m98を跳んで1位。といっても跳ぶ仲間がいなくて、挑戦したのは馬淵さん1人だけだったが、優勝は優勝だ。

2年前の21年にはW85・60m14秒60、100m27秒32で全国ランクの上

位に入っていた馬淵さん。立五段跳は7m03とW85クラスでは高いレベルだが、山口の全日本マスターズ大会には種目がないので、三段跳と走高跳にエントリー。目標とはいえば「この暑さで練習は控えめ。記録とかは狙っていません。マスターズの大会に出られるだけで幸せ。大勢の仲間たちとお会いできることが楽しみです」と。

馬淵さんが初めてマスターズの全国大会に出場したのは07年、青森県で行われた第20回全国スポーツレクリエーション祭マスターズ陸上競技大会の走高跳だった。71歳だった馬淵さんはW70クラスで1m15をクリアして1位となった。以後、全日本マスターズ大会にも参加してきた。「楽しみ」という山口大会では悔いのない競技を！

跳躍は大日向暁子さん(長野)、渡川孝子さん(徳島)に注目

W70クラスでは世界的クイーンの
大日向暁子さん(長野)がいる。73歳の大日向さんは1年前の6月から7月にかけてフィンランドのタンペレ市であった世界マスターズ大会のW70・三段跳で向かい風のなか、8m59を跳び世界一に輝いた。

大日向さんのW70クラスのベストは日本記録になっている8m98だ。フィンランドで自己記録に及ばなかったことを悔やんだ。が、44歳でW45クラスの日本記録12m14をはじめ、クラスが上がるたびに記録をつくり、現在はW40、45、50、55、60、65、70と7クラスの記録保持者だ。世界記録も数々樹立している。

大日向さんも2022年に11m14のW70・立五段跳の日本記録をつけた同種目にエントリーと思ったが、今大会にないため三段跳と走幅跳に出場することに決めた。走幅跳は65歳のときに4m18のW65クラスの日本記録をつけたが、今回W70クラスで

44TH JAPAN MASTERS ATHLETICS CHAMPIONSHIPS IN YAMAGUCHI

第44回 全日本マスターズ 陸上競技選手権大会 2023山口大会

10.7(土) SAT 8(日) SUN 9(月) MON

主催: (公社)日本マスターズ陸上競技連合
主幹: (一財)山口陸上競技協会 山口マスターズ陸上競技連盟
協賛: (公財)山口県スポーツ振興会 山口県スポーツ振興会 山口県スポーツ振興会 山口県スポーツ振興会 山口県スポーツ振興会
協賛: (一財)山口県コンベンション協会 徳島県陸上競技協会 徳島県陸上競技協会 徳島県陸上競技協会 徳島県陸上競技協会
協賛: 日本食品ホールディングス(株) (株)JT 協力: 全国警察協会(全国警察協会) 徳島県(徳島県)

※(公社)日本マスターズ陸上競技連合事務局 > E-mail: jpm@japan-masters.or.jp
山口県陸上競技協会事務局(山口県マスターズ陸上競技選手権大会) > E-mail: kag@kag.or.jp
山口大会実行委員会事務局(山口県マスターズ陸上競技選手権大会) > E-mail: kag@kag.or.jp

エントリー受付期間
6/20(土)~7/12(水)
https://japan-masters.or.jp

全日本マスターズの告知ポスターも完成。10月に山口で熱戦が繰り広げられる

の跳躍は？

暑さを避け、午前6時台に「朝練」を夏の間やった大日向さんの跳躍に注目だ。

徳島の渡川孝子さんも忘れてはならないジャンパーだ。今年は未知のW80クラスに臨む。傘寿の80歳になった渡川さんは75歳の18年、鳥取での全日本マスターズ大会のW75・走幅跳に3m40で1位になったほか、60m10秒08、100m16秒18と3種目で勝った。

今回の山口大会は5年ぶりの全日本マスターズだ。古くを思い起こすと1980年10月18、19日にマスターズ発祥地の和歌山市で行われた第1回全日本中高齢者(当時の呼称)陸上競技選手権で女子最優秀選手に選ばれたのが渡川さんだった。37歳の渡川さんは1A(当時35~39歳)100mに13秒4、走幅跳が5m18とケタ外れの強さを披露した。

第1回と第6回、先の鳥取での第39回大会で女子優秀選手に選出された渡川さん。山口での競技ぶりは？「W80クラスの100mの日本記録は17秒68とレベルの高い記録で、三段跳は7m39。いずれも近づけるように走って、跳んでみます」と静かに話した。